

2018年度前期 FBL/PBL

---

# 福島の今と 京都にいる自分



安藤 悠太 (工学研究科マイクロエンジニアリング専攻D1)  
大川 楠人 (情報学研究科社会情報学専攻M1)  
千葉 龍一 (情報学研究科社会情報学専攻M2)  
劉 英楠 (情報学研究科社会情報学専攻M2)

# テーマ

## 福島のことを考える



### 課題

- ・今なお3万人が避難したままの福島の一次産業の今は？
- ・メディアの情報とフィールドで体感される情報との差異は？
- ・現状に対する私たちの認識がどう変わるか？

### 解決策

- ・この社会的な問題を理解するためにどのようなコミュニケーションや情報伝達が必要か、福島の被災地を実際に訪れて、一次産業のキーパーソンにインタビューをし考えて、問題発見／解決をする。

# 背景

## 東日本大震災

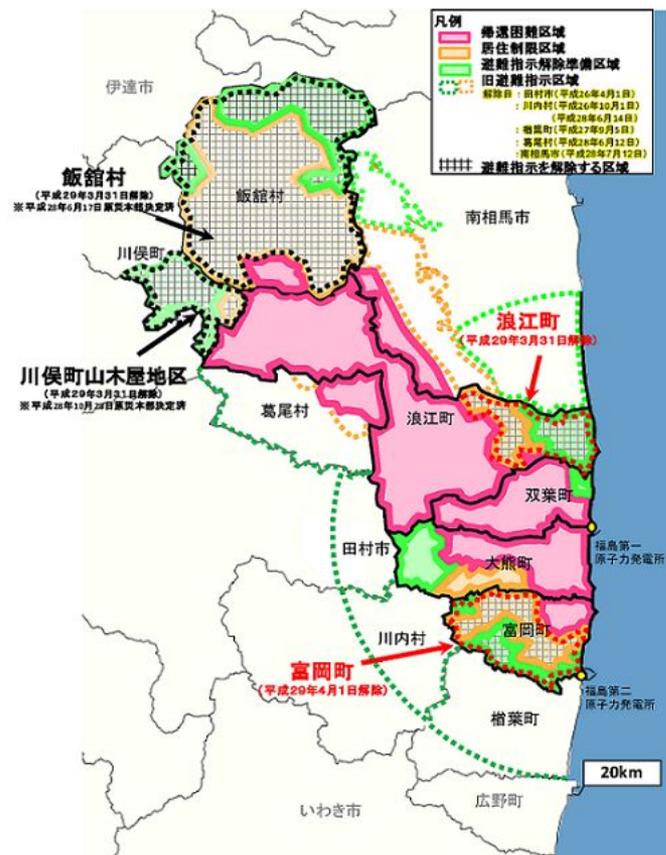
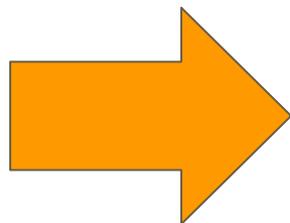
2011年3月11日に発生した東日本大震災は、甚大な被害を東日本にもたらした。2万人を超える人的被害、産業用施設の損壊、ライフラインの寸断等、甚大な被害が発生した。

## 発災後からこれまでの福島

・東日本大震災から7年、津波と原発事故の災害を受けた福島の農・漁村の今を伝える情報は年ごとに減っていった。今なお3万人が避難したまま一次産業が行われている。

# 福島の前時に学んだ現状 避難区域

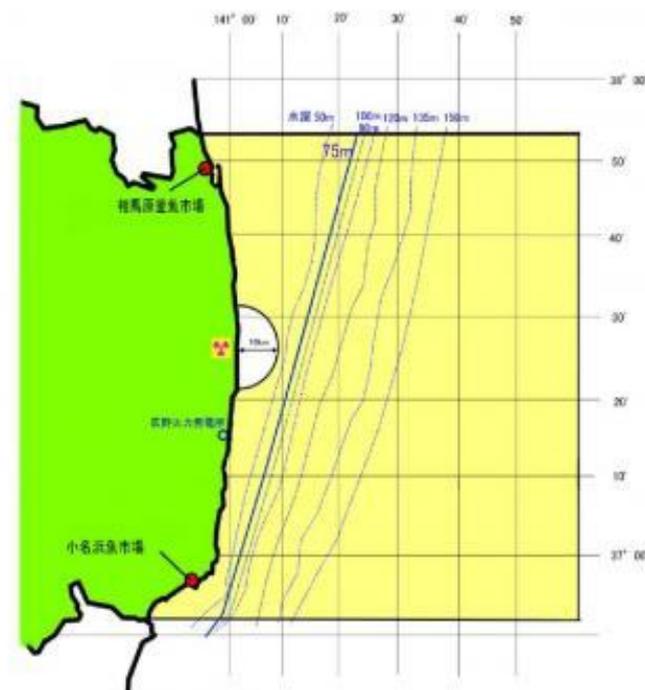
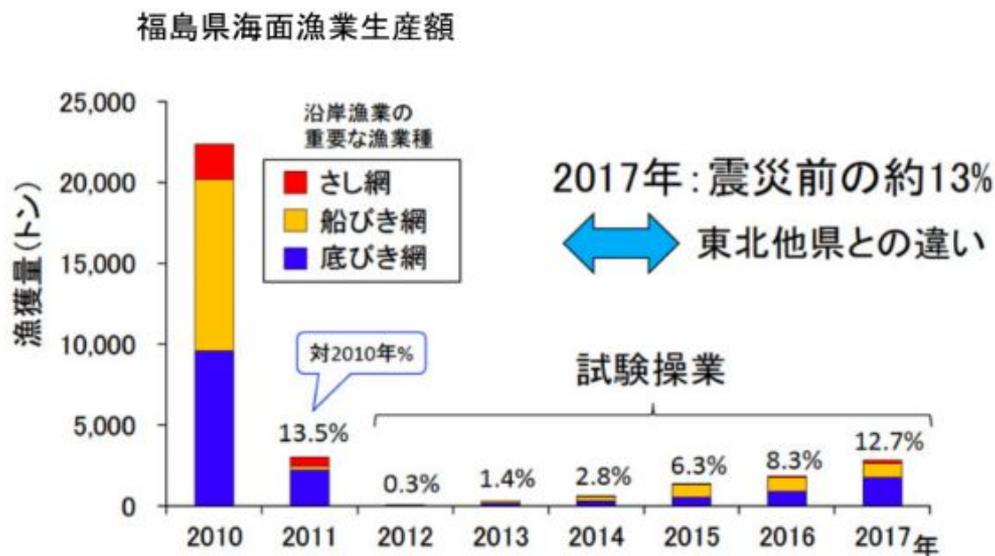
放射壊変・除染により避難区域は縮小している 帰還困難区域や山間部は未だ除染できていない地域がある



# 事前に学んだ福島現状 水産業

漁業は試験操業という形で再開、現在は原発の10km内以外は対象海域

海面漁業は生産額は震災後に落ち込んだが徐々に増加してきている



## 事前に学んだ福島現状 農業・林業

福島県の農業の再開率は6割ほど 避難区域に指定されていた市町村では再開率が低い

林業の場合は建築用の木材の生産はあまり影響を受けていないが、山間部は未だ除染できていないため、きのこ類や山菜は基準値を超えてしまい出荷できていない

### ▶POINT

流通している農作物・水産物はモニタリングにより、放射能の基準値を下回っていることが確認されているものである

# 距離と時間が生み出したギャップ

遠く離れた地にいる私たちは、どれほど実情を……？

ニュースや新聞から情報入手できる。

そういう情報は、「福島」の全てであると思いついでないか？

そもそも、「自分とは無関係」と思ってしまったことは、ほとんどの人が無関心になる。

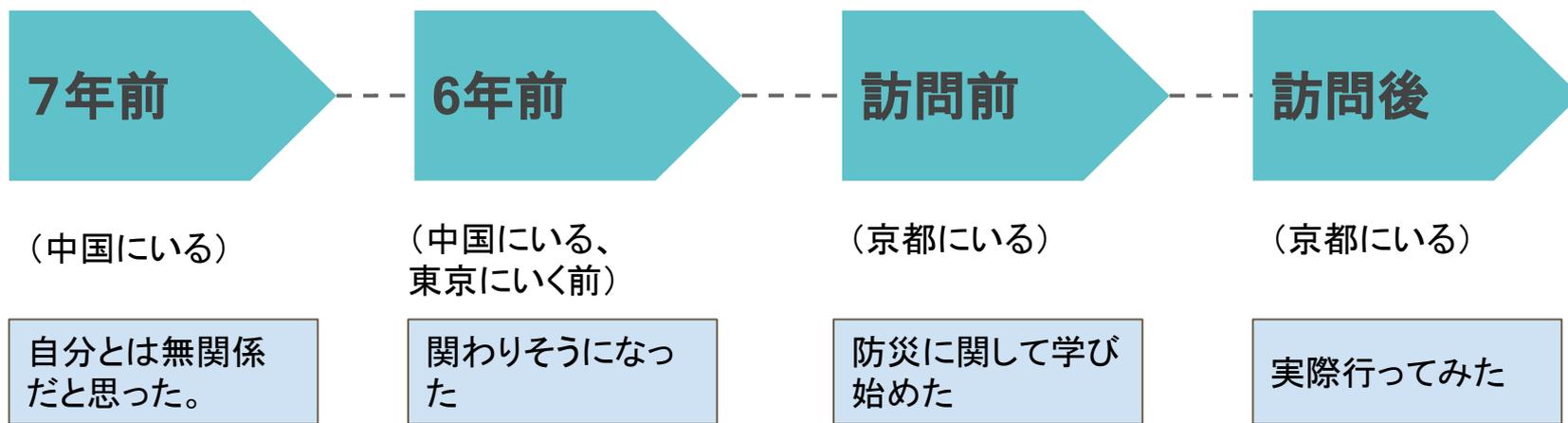
無関心でも耳に入った情報は、どれほど実情にと一致しているんだろうか？

そういう疑問・不安、払拭したい。

→現地に行って確かめ、正しく理解する。

# 福島に対する意識の変化

## 私個人の「福島」に対する認知の時間推移



# 福島に対する意識の変化

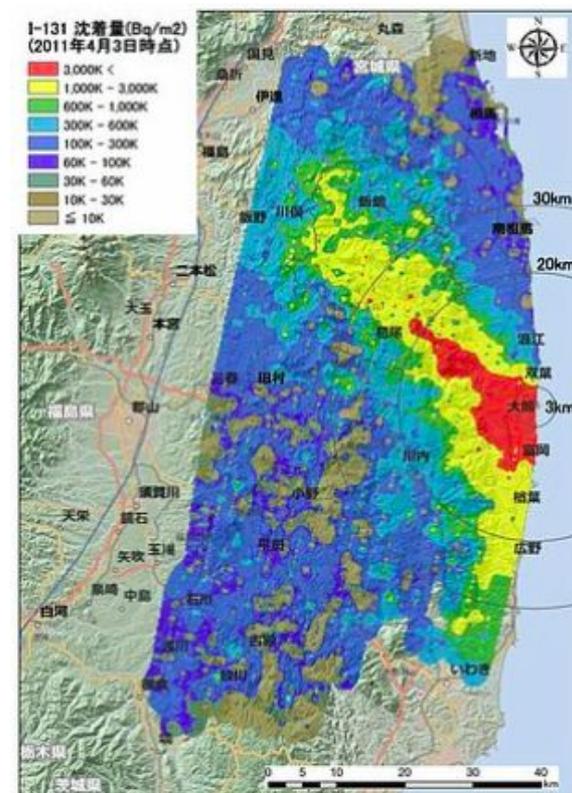
## 私個人の「福島」に対する認知の時間推移

7年前  
(中国にいる)

自分とは無関係  
だと思った。

実際、当時でも  
線量的に避難する必要があるのは、  
福島県の一部ですが...

「日本」がやばい



<https://blog.goo.ne.jp/wa8823/e/e322d04c84c93c1016f6b490bd02728e>

# 福島に対する意識の変化

## 私個人の「福島」に対する認知の時間推移

6年前

(中国にいるが、東京  
に行こうとする)

関わりそうになっ  
た

留学で東京に行くことになった時期。  
日本の現状は、自分とは無関係でなくなった。  
調べてみて、東京は大丈夫そうかなと思い...

**「福島」がやばい**

# 福島に対する意識の変化

私個人の「福島」に対する認知の時間推移

**訪問前**  
(京都にいる)

防災に関して学び  
始めた

防災について学び始め、  
福島の現状は耳に入るようになった。  
なんとなく大丈夫そう？

**「福島」も大丈夫そう？**

# 福島に対する意識の変化

私個人の「福島」に対する認知の時間推移

訪問後  
(京都にいる)

実際行ってみた

「百聞は一見にしかず」

現地に入り、林業、水産業、医者、農業の方から、話を聞いてきた。

今まで知らなかった福島が浮かび上がり、  
今まで気づけなかった問題に気づくことができた。

現状を知り、納得

# インタビュー

各分野の従事者・専門家に現状の問題点を質問

## 農業



ふくしま再生の会  
菅野宗夫さん



福島県農業総合センター  
草野憲二さん



東大農学部  
二瓶直登先生

## 林業



ふくしま中央森林組合都路事業所  
青木博之所長

## 水産業



福島大環境放射能研究  
所  
和田敏裕先生

## 健康



福島県立医大  
熊谷敦史先生

# インタビュー

## 健康問題について



福島県立医大 熊谷敦史先生

専門分野: 災害医学  
リスクコミュニケーション



[https://epi.ncc.go.jp/files/02\\_can\\_prev/outcome/BMI\\_Col1\\_thumb.jpg](https://epi.ncc.go.jp/files/02_can_prev/outcome/BMI_Col1_thumb.jpg)

- 避難生活から生活習慣が悪化し**肥満が増加**したことで、被爆以上にガン発症リスクが上昇.
- 放射能自体による健康被害はなく、放射能という言葉による**ストレス被害**がある.
- 個人により問題は様々であるので、地域の保健士などの力を借りて、**その人に寄り添ったコミュニケーション**によってストレス問題を解決していかなければならない.

# インタビュー

## 農業について

- 生活区域を中心に除染は進み、農業はできるようになっている。しかし、**里山と密着した生活**が不可能なため戻らない農家も多い。
- 飯舘村では、ゼロから農業を再開する際に、大学やNPOが中心となり**新しい農村の形を模索**している。
  - 急速に人口減少が進んだ日本の農村再生のモデルとなりうる。
- 農作物の検査は毎日極めて厳重に行われており、**安全性は確保**されている。



ふくしま再生の会  
菅野宗夫さん



福島県農業総合センター

## インタビュー

# 水産業について

- 漁業圧の低下による生態系の変化・資源量の増加が見られた。
  - 今後の漁業体制を考える上で重要
- 漁業従事者は、十分な補償金が手に入っている現状があるため、漁業を再開しなくても生活できてしまう。
- 汚染水を放出することによる影響はないが、風評を懸念している人も多く、現在方針が決まっていない。



福島大環境放射能研究所  
和田敏裕先生



大量のトリチウム水

## インタビュー

# 林業について

- ふくしま中央森林組合では、林業の新たな形として**プロでなくてもできる**、広葉樹による**持続可能な林業**を目指してきた。
  - 建材生産に比べて、雑木林でのきのこ原木の生産は高齢者や女性でも作業が簡単。
- きのこ原木はきのこに**放射性物質が濃縮**されるので**基準値が厳しく**、この地域でのきのこ原木の生産は難しくなってしまった。
  - 他の地域で、新しいモデルとしてこの林業形態を伝えていこうとしている。



ふくしま中央森林組合都路事業所  
青木博之所長



現在資材置き場はコミュニティ  
スペースとなっている



## 気づき①

# 放射能は落ち着いても元に戻らない生活

放射能が壊した生活が長期化し、なかなか元に戻らない

健康リスクから考えると...

避難生活による生活習慣の変化 ⇒ QOL低下

⇒ 肥満・ストレスなどによる発がんリスク上昇

一次産業から考えると...

補償金に頼ってしまう生活、地域コミュニティの破壊

⇒ 避難区域における低い一次産業再開率

避難区域は「田舎 = 一次産業が生活と密接な地域」

避難者・一次産業従事者の生活をどのように取り戻すか？

## 気づき②

# 一次産業復興を妨げる根強い風評被害

流通する農産物・水産物はモニタリングで安全が確認  
(山菜・キノコ原木・淡水魚などはいまだに基準値超え)

**風評被害が残る限り、一次産業者の生活は戻らない**

しかし、身近な人にさえも福島産を避ける傾向が残る

- ・安全性に関する科学的根拠が正しく伝わっていない
- ・論理的な説明とは無関係な層が一定数存在する

風評被害をできるだけなくすには何ができるのか？

⇒ 引き続き取り組んでいくことが必要

## 気づき③

# 福島「復興」から考える日本の将来

避難区域は「社会構造が崩れた過疎地」のモデルとなりうる

・一次産業と生活が密接な関係にある田舎

・長期的な避難と部分的な帰還による急速な「過疎化」

⇒ 数十年先に日本のあらゆる田舎で生じうる問題が顕在化

元通りにする「復興」ではなく、持続可能な「復興」を！

一次産業で成り立つ田舎の再評価・持続可能性の向上

・地域性(福島らしさ)を活かした産業の振興

・行政と住民を繋ぐ「ローカルリーダー」の存在

⇒ 互助・自助が可能な自立分散型のソーシャルデザイン

ステイクホルダー・ファン増加への期待も？

# 提案

根強い風評被害を乗り越えるには？

フェアトレードに似た「**ホープトレード**」の導入

意欲的な消費者に向けて前向きな購入を促す仕組み。

科学的な絶対安全を推す。直接的な経済支援に繋げる。

風評被害を受けないために

メディアリテラシーを学ぶ**教育パッケージ**を作る

メディアリテラシーを学ぶ題材として福島のだブルスタンダードの話やツイッターのデマの事例を取り上げる。

納得してもらうために

「**ブルー&グリーンツアー**」プランの策定

豊富な資源を推し、現地で一次産業を体験してもらう。

実際に現地に行くので、参加者の現状理解に繋がる。